平成26年度　第3回

下水道若手職員によるネットワーク（下水道場）
報告書

国土交通省水管理・国土保全局　下水道部

国土交通省

開催概要

平成26年度第３回下水道若手職員によるネットワーク（下水道場）

テーマ「防災・減災」

開催日程：平成27年3月18日（水）、19日（木）
開催場所：仙台市民会館、仙台市南蒲生浄化センター
参加者数：自治体56名（都道府県5名、政令市36名、一般市13名、公社2名）
　　国土交通省2人、日本下水道事業団1名、土木研究所1名、日本トイレ研究所1名

プログラム

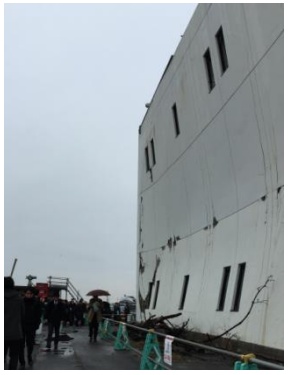
【3月18日】2015 下水道防災シンポジウム in 仙台
１．発表「防災・減災に向けた下水道場の挑戦」
　広島市下水道局計画調整課　広森源太氏
　福岡市下水道計画課　白水千穂氏

【3月19日】
１．仙台市建設局南蒲生浄化センター　現場・展示視察

２．仙台市からの情報提供
　講師：建設局下水道調整課主任　小松孝輝氏
　　建設局南蒲生浄化センター所長　石川敬治氏

３．ディスカッション
　「下水道場　仙台宣言を踏まえた具体的行動について」
　(1) 班別討議
　(2) 発表、表彰

４．国土交通省からの情報提供
　国土交通省下水道部下水道企画課　内山輝義



1日目（下水道防災シンポジウム）

2015 下水道防災シンポジウム in 仙台

「防災・減災に向けた下水道場の挑戦」

下水道場の活動目的やこれまでの取り組みなどを報告。
新たに仙台宣言を発表し、防災・減災に向けた下水道場の取り組みを表明した。

〈代表発表者〉
広島市下水道局計画調整課　広森源太氏
福岡市下水道計画課　白水千穂氏

白水氏（左）と広森氏

下水道場　仙台宣言

一．下水道場メンバーは、下水道場のネットワークを生かし、今後も情報・ノウハウの共有や研鑽を通して、日本の防災・減災力を高め合っていく

一．下水道場メンバーは、各自治体・団体において平常時から災害への備えを積極的に行い、非常時の円滑な対応、安全確保に努める

一．下水道場として、未曾有の災害での経験を活かした先進的な取り組みを世界に発信し、国際社会に貢献していく

2日目（現場視察）

仙台市南蒲生浄化センター視察

津波で甚大な被害を受けた第3ポンプ棟などを視察

2日目（現場視察）

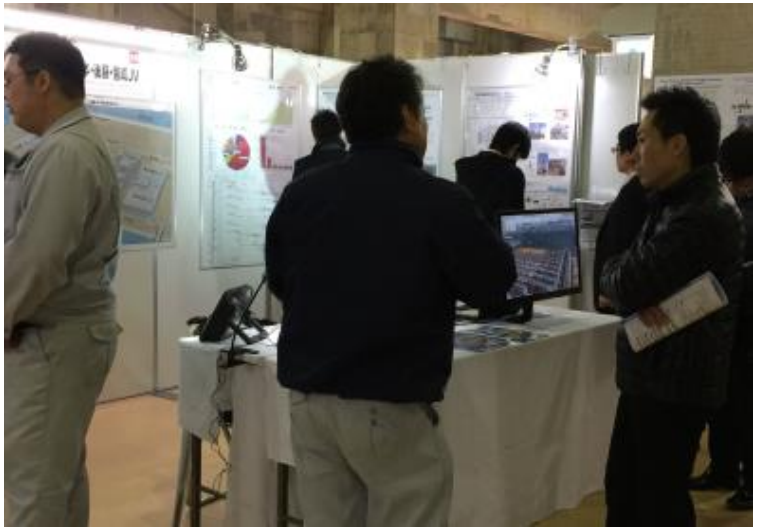
仙台市南蒲生浄化センター視察

未だ残る震災の傷跡、そして復興の兆し
汚水処理を懸命に支える関係者に敬服

2日目（展示場見学）

仙台市南蒲生浄化センター（下水道展示コーナー）

下水道展示コーナーを見学
防災・減災に関する技術等も展示された



仙台市からの情報提供①

仙台市におけるアセットマネジメント（AM）の取り組み
（建設局下水道調整課主任　小松孝輝氏）

小松孝輝主任

背景

予算縮減、職員減少、老朽化施設の増大などを背景に、これらの課題を包括的に解決していくため、ＡＭを導入。

災害対応に活かされたＡＭ

ＡＭで整備したＧＩＳや業務プロセスの考え方を災害時管渠調査等に応用。調査の迅速化と情報蓄積を図ることができた。

煉瓦下水道場

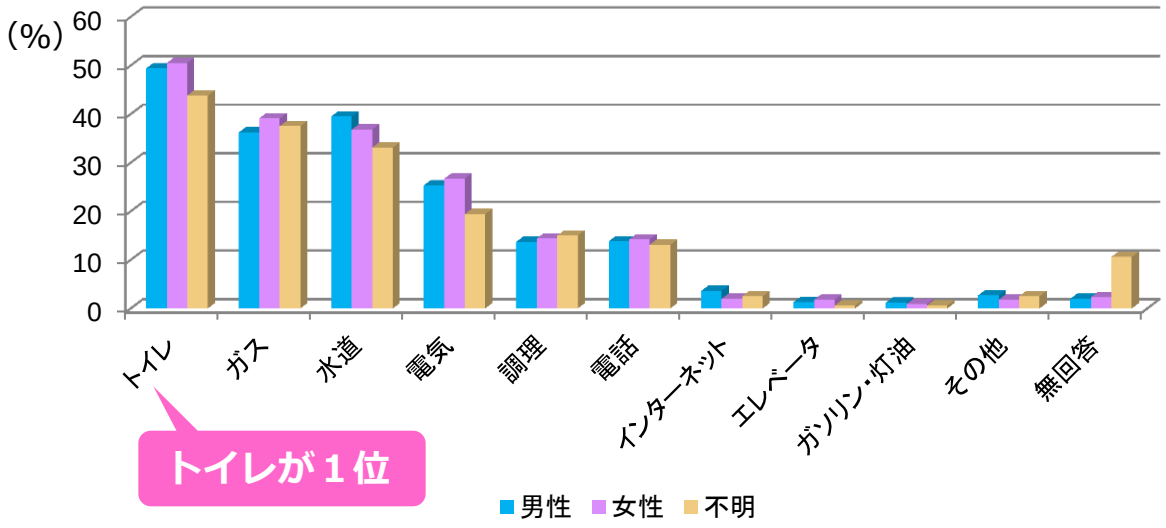
- 下水道の将来を担う「明日の下水道人」の育成を目的に発足。
- 最高師範（建設局次長）、師範４名とともに若手職員が考え、議論し、表現する、組織・職種を超えたネットワーク。
- ＡＭの柱の１つ、人のマネジメントにおいて煉瓦下水道場が大きく貢献。

2日目（情報提供）

仙台市からの情報提供②

もう、後回しにはできない　下水道の真の維持管理時代
（南蒲生浄化センター所長　石川敬治氏）

Q：震災時、何が不自由と感じたか？



小松孝輝主任

予想もしないことが次々と起きるのが災害

どちらを優先するか？　→　**判断**
どうするか？　→　**決断**

災害はその場の判断や決断を迫られるため、「自分がやる！」の心構えが欠かせない
経験と勘を磨き、よく見て、よく考えることが重要

2日目（ディスカッション）

テーマ
「下水道場　仙台宣言を踏まえた具体的行動について」

仙台宣言の実現をめざして、
「各自治体等における具体的な取り組みは？」
「下水道場としてできる活動内容は？」を議論

８班に分かれて議論（持ち時間50分）

各班の発表を参加者自らが審査・投票

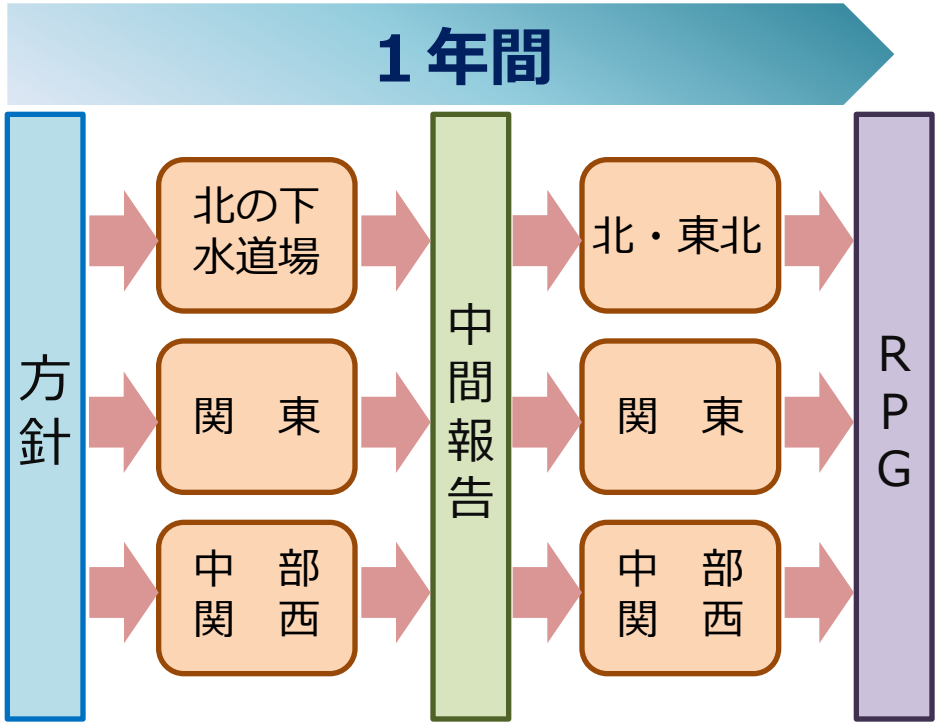
水の天使も来場

１班

下水道場 ブラッシュアップ大作戦！

現状の課題

◆ディスカッションの時間が短い
◆テーマ探しに奔走（多様化）



１つのテーマを１年間で話し合う。
１回目の下水道場で方針を決定、
２回目で中間報告を行い、
３回目でRPG（ロールプレイング　ゲーム）方式の実践

2日目(発　表)

２班

１．災害への備え（各団体の取組み）

❑災害時、一次点検調査の訓練

２．情報・ノウハウの共有（下水道場の取組み）

❑ＳＮＳ、メルマガ等

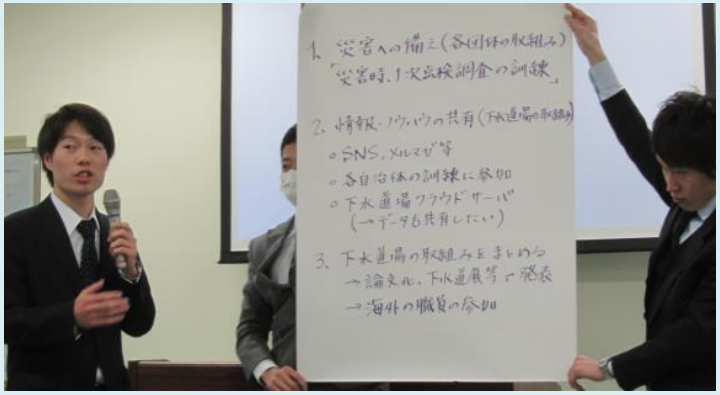
❑各自治体の訓練に参加

❑下水道場クラウドサーバ（ → データも共有したい）

３．下水道場の取組みをまとめる

❑論文化、下水道展等で発表

❑海外の職員の参加



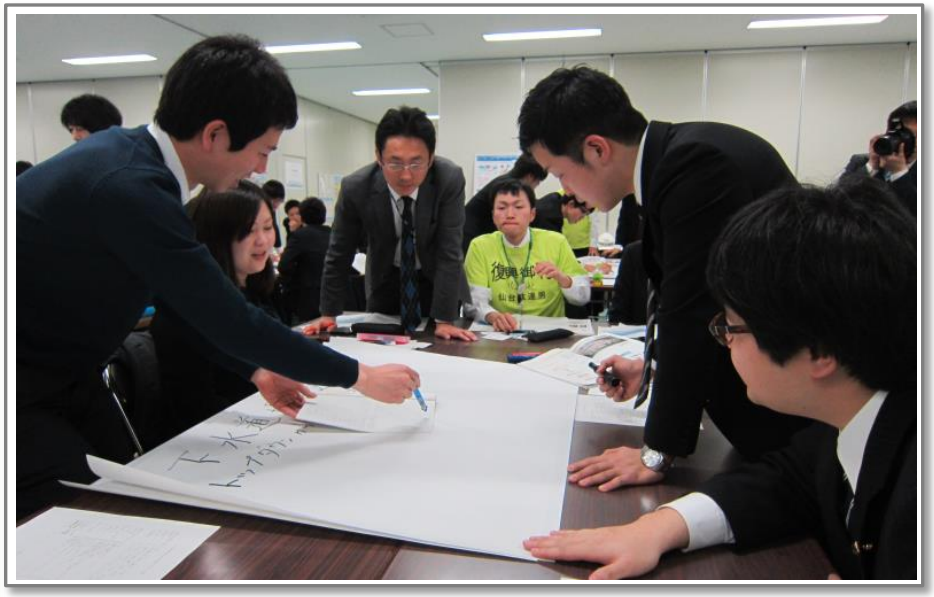
2日目（発　表）

３班

下水道場の進化

～トップダウンからボトムアップへ～

○地域版下水道場の設立
○下水道場の位置付けの明確化
○下水道場から国への提言



2日目（発　表）

４班

ネットワーク

- 各自治体内部に周知（認識）させる
- 技術の伝達（下水道場ＯＢ等）
- 地方版下水道場を開催
- 道場内メーリングリストを作成（各テーマごと、年度分けはしない）

災害の備え

- 各自治体ごとの下水道施設の事例集を作成（マンホール・管渠など）
- 下水道場を他の自治体でも行い、その地域、自治体の特性を学ぶ

国際社会に

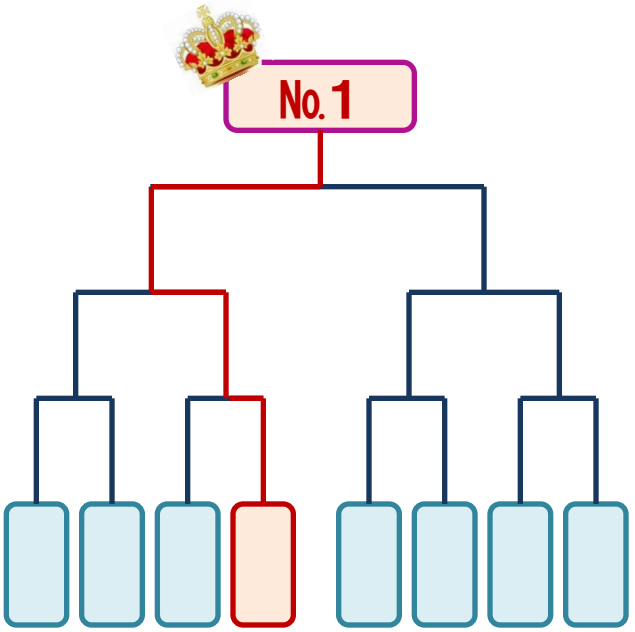
〈世界に発信の前に〉

- 道場の取り組みを多く発信
- 世界版の下水道場を開催する

2日目(発　表)

５班

めざせ No.１!!



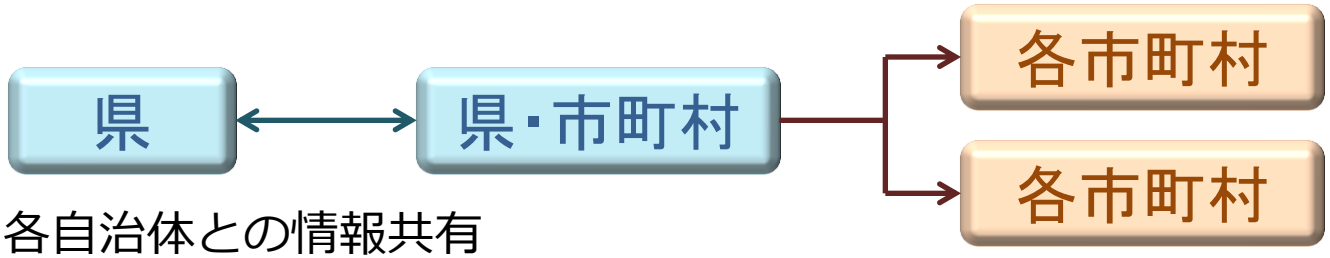
- 地方版下水道場の開催
- 減災、防災の取組みを話し合う
- 全国大会でNo.１決定

2日目（発　表）

６班　最優秀

下水道場のネットワークを活かす

⇒ ローカル下水道場をつくる（県単位をスタートに）



各自治体との情報共有
※下水道場の成果報告会を頑張る　⇒　理解を得る、賛同者を増やす

下水道場の発展

☞ フィールドワーク
被災自治体に聞きに行く
⇒ 事例収集・ＤＢ化

☞ まずは国内に発信
⇒ 国際的発展

2日目（発　表）

７班

今後に向けた取組

①各自治体・団体の
　好事例
　失敗事例
　｝メンバー間で**共有**

②海外発信に向けて
　Twitter, Facebook, LINE…
　SNSアカウントを開設
　⇒ **多言語で発信**

2日目(発　表)

８班

全国　　**若手**　　**共有**

下水道場ＨＰ作成など

平常時より情報を共有

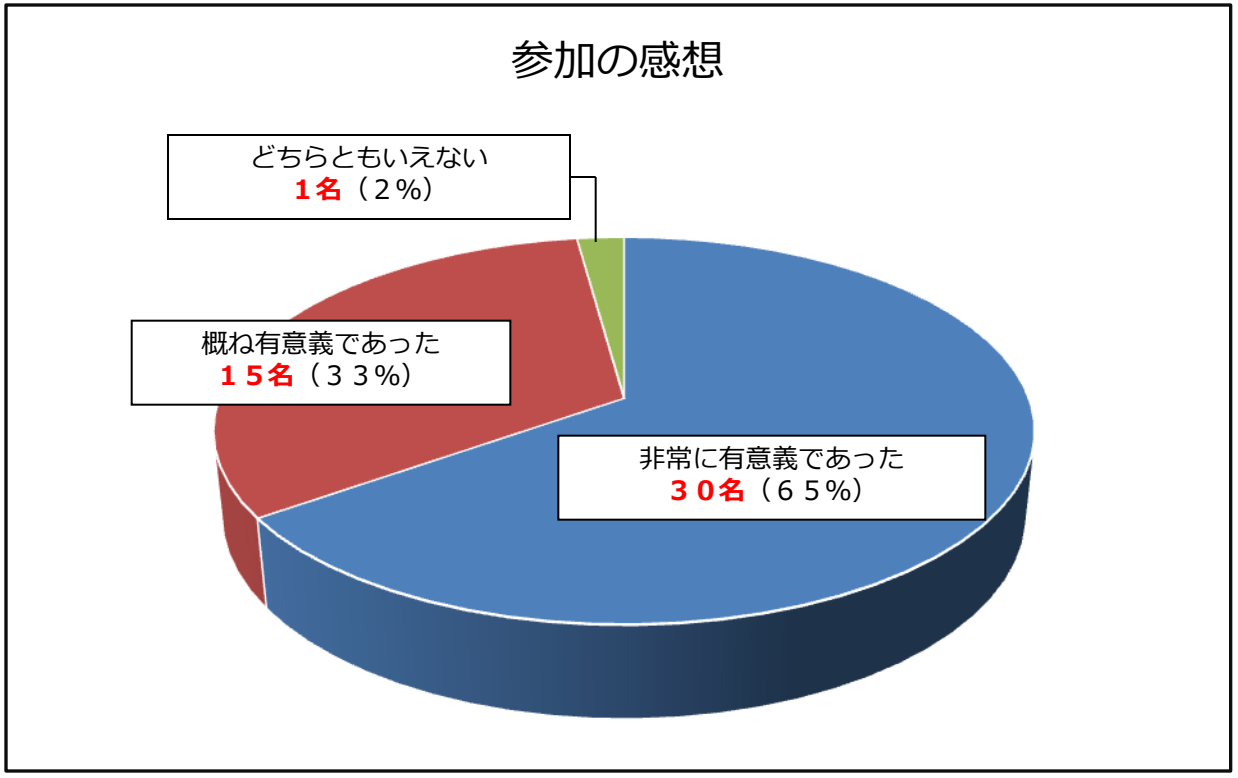
日々の疑問

アンケート集計結果

下水道場開催後、参加者に対してアンケートを実施した。有効回答数は46であった。

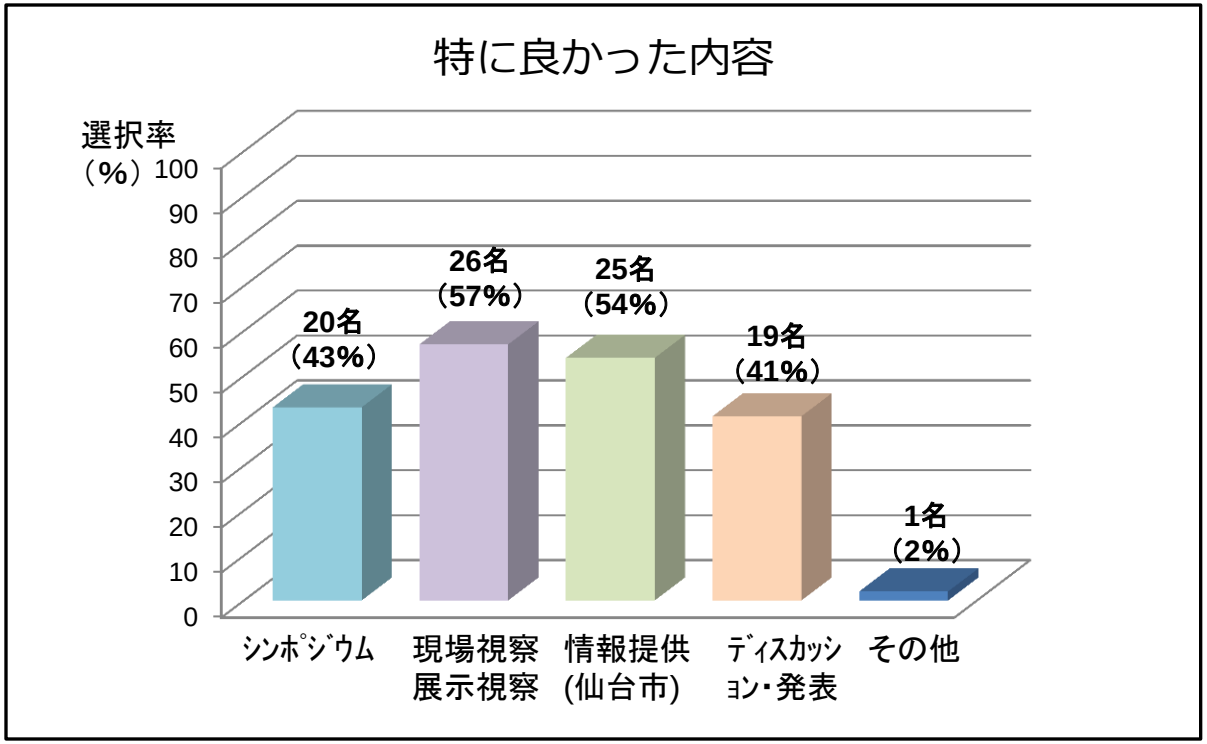
Q1 参加の感想

下水道場に参加した感想を尋ねた。「非常に有意義であった」が30名（65%）、「概ね有意義であった」が15名（33%）、「どちらともいえない」が１名（2%）で、「有意義でなかった」と答えた参加者は皆無であった。



Q2 特に良かった内容

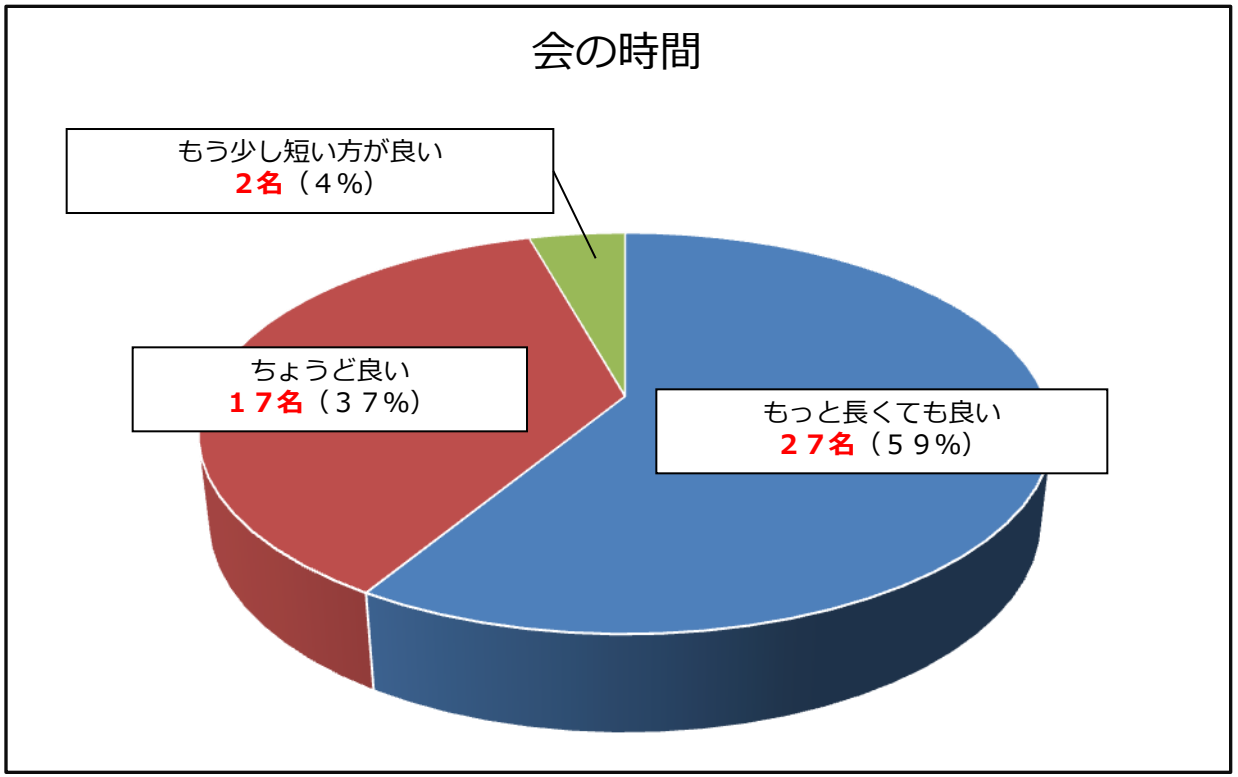
特に良かった内容を尋ねた（複数回答可）ところ、「現場視察・展示視察」（26名、57%）、「仙台市からの情報提供」（25名、54%）の回答が多く、これに「下水道防災シンポジウムin仙台」（20名、43%）、「グループディスカッション・発表」（19名、41%）が続いた。「その他」を選んだ１名は、「意見交換会」と回答した。



※複数回答可

Q3 会の時間について

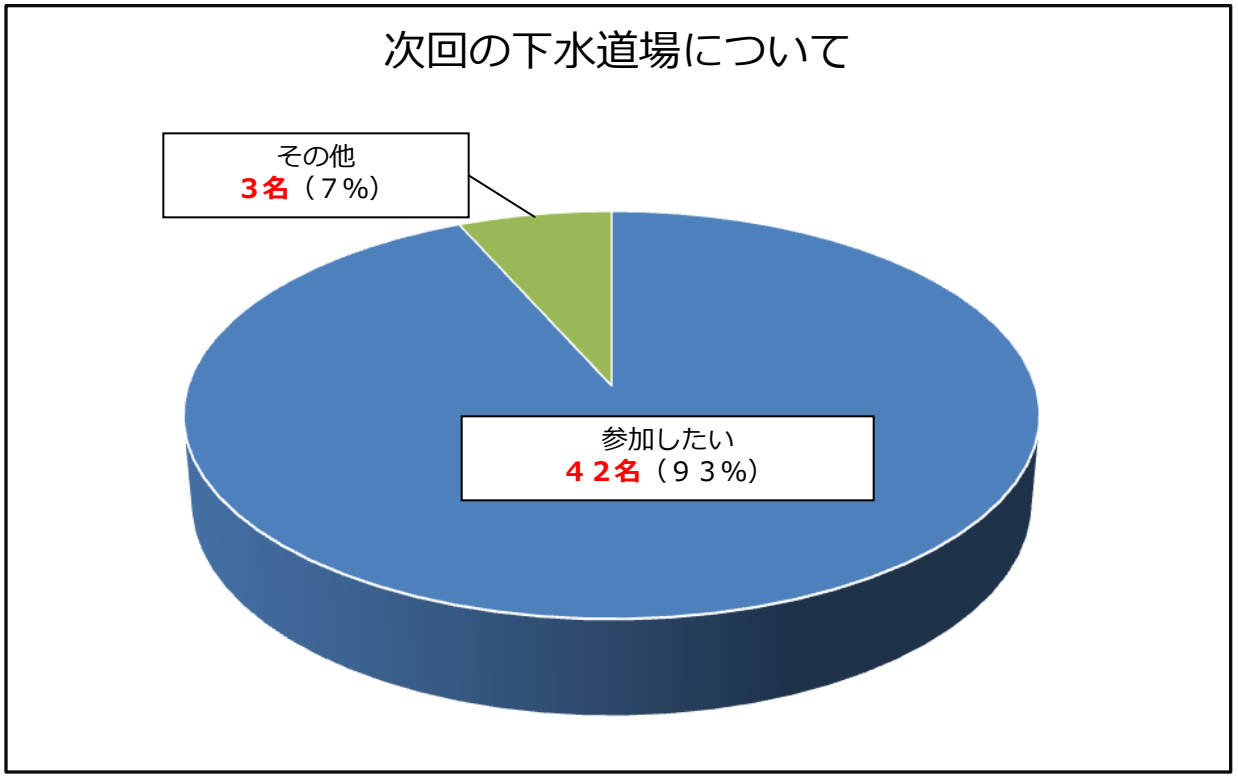
会の時間について尋ねたところ、総回答数の59%に当たる27名が「もっと長くても良い」と回答。「ちょうど良い」は17名（37%）、「もう少し短いほうが良い」は2名（4%）だった。



※「もっと長くても良い」の回答のうち１名は「ディスカッションの時間を長くして欲しい」との回答だった

Q4 次回の下水道場について

次回の下水道場の参加意思について聞いたところ、93%にあたる42名が「参加したい」と回答、「参加したくない」は皆無だった。「その他」（３名）は、「参加メンバーが交替する」、「若い人が参加したほうがいい（メンバー固定）」、「ほかの職員にも道場を経験してほしい」との回答だった。



アンケート

Q5 代表的な意見・要望・感想

〈今後のあり方について〉

○地域版下水道場を公式に位置付けて頂き、横の情報交換、国への情報提供、提案の場として活用できれば、下水道場としての活動がしやすくなると思う。
○地方版下水道場を行うことになった場合の取りまとめが重要。
○地方版下水道場→全国版へのボトムアップが良いと思う。
○都道府県職員の参加率を上げるべき。市町村独自で勉強会や道場を立ち上げようとしても難しいため、各都道府県職員の参加をもっと呼びかけてほしい。
○グループディスカッション時間を延ばしても良いと思う。
○テーマにより参加者が異なってもよい（例：防災は防災担当者が参加する等）。

〈次回の開催時期・場所〉

○これまで通り、下水道展、下水道の日、下水道駅伝に合わせての開催が良い。
○次回は札幌を希望する。

〈その他、感想・要望等〉

○震災の状況・取組などを知ることができ、貴重な経験となった。
○全国のローカル道場の情報を知りたい。
○先進設備の導入施設を学びたい。

国土交通省からの情報提供

- 平成26年度第１回下水道場において、環境教育に関するノウハウの不足等の課題が明らかになったほか、ディスカッションでは環境教育のデータベース化を求める声が上がった。
- これを受けて、全国どこでも、一定の水準で楽しく環境教育が実施できるよう「うんち大研究！下水道ワークショップ」を今年度より国交省で開始し、このたび「運営マニュアル」をまとめた。
- 本マニュアルならびに専用サイトを基に、全国で環境教育の波を起こしていきたい。
- 実施要望や問い合わせは国交省までお寄せいただきたい。

次回開催に向けて

平成26年度は「研鑽と成果」を柱に実施してきた。
研鑽は実習や現場の体験等を柱に実施、成果に関しては事例の蓄積・共有化などを進めてきており、この考え方は27年度も引き続き継承する。併せて、「地方版下水道場」の活動も活性化させていく方針。

参加者リスト

1班

氏　　名	所 属 団 体	部 署 ／ 役 職
片岡　徳人	北海道	建設部まちづくり局都市環境課
松谷　和明	仙台市	施設建設課
武井　長閑	埼玉県	下水道局下水道管理課
坪﨑　裕幸	神奈川県藤沢市	下水道施設課
川戸　貞幸	愛知県豊田市	上下水道局下水道建設課
金井　容秀	大阪市	建設局下水道河川部
広森　源太	広島市	下水道局計画調整課
桜井　健介	土木研究所	材料資源研究グループ　リサイクルチーム

2班

氏　　名	所 属 団 体	部 署 ／ 役 職
滝口　博文	札幌市	建設局下水道計画課
佐々木　浩也	仙台市	下水道北管理センター
大和谷　敦史	さいたま市	下水道計画課
荒井　一寿	富山県富山市	上下水道局下水道課
畔柳　裕充	(公社)愛知水と緑の公社	下水道部豊川事業所
楠　允宏	堺市	下水道計画課
中久保　祐典	広島市	下水道局管路課
平澤　恵介	日本トイレ研究所	

参加者リスト

3班

氏　　名	所 属 団 体	部 署 ／ 役 職
三國谷　弘明	北海道苫小牧市	下水道計画課
田村　典大	仙台市	下水道南管理センター
塚本　洋介	さいたま市	下水道計画課
窪田　光作	石川県金沢市	企業局建設部建設課下水道管渠グループ
中岡　優亮	(公社)愛知水と緑の公社	下水道部管理課
下村　卓也	大阪府池田市	上下水道部経営企画課
白水　千穂	福岡市	下水道計画課

4班

氏　　名	所 属 団 体	部 署 ／ 役 職
髙橋　健太	仙台市	下水道計画課
安藤　英彦	千葉市	下水道計画課
廣瀬　勝康	静岡市	下水道計画課
諸岡　博史	三重県	下水道課
山本　拓也	神戸市	建設局中央水環境センター管理課
八岡　秀和	北九州市	下水道整備課
南晴　章伍	国土交通省	水管理・国土保全局下水道部下水道企画課

参加者リスト

5班

氏　　名	所 属 団 体	部 署 ／ 役 職
中沢　達也	仙台市	下水道調整課
阿部　昴久	仙台市	南蒲生浄化センター
髙瀬　益紀	千葉市	下水道計画課
松下　裕明	浜松市	下水道工事課
左近　政孝	京都府舞鶴市	下水道建設課
長田　朋之	神戸市	建設局中央水環境センター施設課
北川　啓一	北九州市	下水道計画課

6班

氏　　名	所 属 団 体	部 署 ／ 役 職
大畑　智史	仙台市	下水道調整課
美濃　吉広	宮城県東松島市	建設部下水道課
伊藤　隆一郎	横浜市	下水道事業調整課
石黒　雄紀	愛知県	下水道課
福田　浩史	京都市	上下水道局下水道部設計課
松尾　一樹	奈良県斑鳩町	下水道課
木村　健士朗	熊本市	上下水道局計画調整課

参加者リスト

7班

氏　　名	所 属 団 体	部 署 ／ 役 職
青田　由希雄	仙台市	下水道調整課
佐藤　修生	秋田県秋田市	上下水道局下水道整備課
眞鍋　祥	川崎市	下水道計画課
田邉　靖大	名古屋市	上下水道局下水道計画課
森　幹太	京都市	上下水道局下水道部計画課
石丸　定雄	岡山市	下水道局下水道経営計画課
藤本　匡哉	熊本市	上下水道局下水道整備課

8班

氏　　名	所 属 団 体	部 署 ／ 役 職
遠藤　真也	仙台市	管路建設課
椎谷　充	福島県郡山市	下水道建設課
日向　隼人	神奈川県藤沢市	下水道施設課
大橋　良	愛知県岡崎市	下水工事課
松本　龍	大阪府	都市整備部下水道室
石田　真	広島市	下水道局計画調整課
金子　由美	日本下水道事業団	東海総合事務所　施工管理課
内山　輝義	国土交通省	水管理・国土保全局下水道部下水道企画課